第３６回　岩手大学ＥＳＤ銀河セミナー

Oボランティア活動に関するセミナー・シリーズ（3）

■□

ボランティアと地域と学びをいかに結ぶか！

ー岩手県立大学・山本克彦先生と
コミュニティー・ベイスド・ラーニングについて語るー

■□

★キーワードは、「地域（コミュニティー）」と「学び（ラーニング）」

第 34 回セミナーでは、ＩＣＵの村上むつ子さんから、ボランティア活動と「サービス・ラーニング」の違いは「振り返り」（学び）にあることを伺いました。また、ボランティアと地域と学びを結んだ「コミュニティー・ベイスド・ラーニング」という言葉を学びました。

第 35 回セミナーでは、創価大学の宮崎猛先生から、都立高校と連携した学生のサービス・ラーニングの実践例を伺いました。それは、地域の期待に応えるために、学生にとって「責任」や「貢献」の意味を深く学ぶ貴重な経験となっていることが語られました。

今回は、２回のセミナーを踏まえて、岩手県立大学でボランティア・センターの指導をしておられる山本克彦先生をお招きして、ボランティアと地域と学びを結んだ「コミュニティー・ベイスド・ラーニング」について、突っ込んで語り合いたいと思います。

【日時】: 2010年6月30日(水) 16:30～18:00
【場所】: 岩手大学学生センター棟2階会議室
【主催】: 大学教育総合センター
【対象】: 教職員･学生･一般市民

山本克彦先生の略歴

岩手県立大学社会福祉学部福祉臨床学科准教授。研究分野は、児童福祉、社会福祉援助技術、福祉教育、ボランティア学習等。

滋賀大学教育学部卒業後、地元の公立中学校教員として数学の教科指導、学級経営、生徒指導に関わり６年間を過ごす。その後、学生時代からボランティアで関わっていた YMCA(京都) に転職し、ボランティアリーダーの養成を４年間。さらに社会福祉法人職員に転職し、児童福祉施設（保育所）で副園長、老人福祉施設事務職(兼務）で約５年間。この間に社会人として龍谷大学大学院にて社会福祉学を学び、現職へ。